

最優秀賞・(財)理想教育財団賞

■受賞者インタビュー ●霧島市立日当山中学校 山内耕治先生

「学校と家庭を結ぶ」役目を学級通信にたくす。

— 受賞のお気持ちを聞かせてください。

びっくりしています。ここまで発行できたのは、一つひとつの行事に対する子どもたちの頑張りがあり、さらには、保護者の方々の応援があったからだと思います。素晴らしいクラスにしていきたいという子どもたちのエネルギーが、ここまで発行する原動力になっているような気がします。

— 制作に当たって、留意されている点は何でしょうか。

子どもたちにも、保護者にも「読まれる通信」をめざしています。そして、できるだけ時期を逸せず発行することを心がけ、親子で話す話題提供ができたらと思っています。そして、いつでも読み返し、子どもたちが取り組んできた「足跡」が、「よし、次も頑張ろう！」というチャレンジへつながって欲しいと願いを込めています。

— レイアウトや文章、そのほかで特に注意し、工夫している点がありますか。

これも伝えたい、あれも伝えたいと、つい文字が多くなってしまいます。自分が親になって感じたことなのですが、手にする側としては、文字が多く変化がないと途中で読むのを投げ出してしま

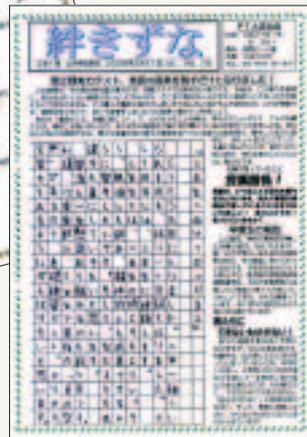
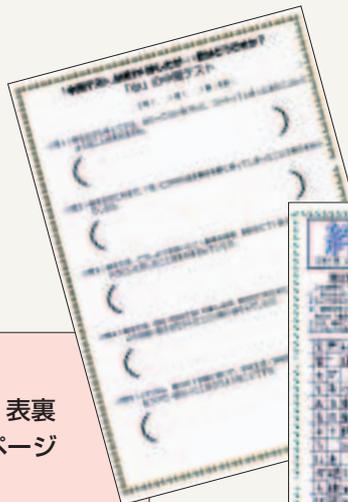
います。ですから、見出しで引きつけ、説明文章はあきない長さにし、記事の配置に変化をもたせ、写真をうまく利用するようにしています。

— この通信について、子どもたち、保護者の反応はいかがでしょう。

子どもたちは、自分のことが掲載されるのを「恥ずかしい」と思う反面、配布するとよく読んでいる姿がみられます。また、保護者に会うたびに、「絆」楽しみにしていますよ」と励ましの言葉をかけてくださいます。メール連絡網を使って通信を発行したことを連絡するようにしていますので、子どもが家に帰り着くと「お帰り、学級通信は？」という会話があるそうです。こういう話を聞くときが、発行してよかったと思うときであり、発行する励みになっています。

— 通信の意義について、聞かせてください。

4月の家庭訪問時に、表紙に「教育Ⅱ協育」と大きく書いたプリント綴りを配布し、「学校と家庭を結ぶ」役目を、この学級通信にたくしています。家庭の協力なくしては、学校教育は成り立ちません。そういう意味でも、保護者の方を学校に引き込む重要な役目を担っていると思っています。



表面には日々の行事や学級の記録のほか、生徒の描いた絵や作文なども積極的に掲載。

裏面には生徒へのアンケート、生徒の主張、心に残る名言などを掲載

■制作データ■

- ・紙面のサイズ A4 表裏
- ・毎号のページ数 1ページ
- ・カラー印刷
- ・発行部数 約40部
- ・発行間隔 1週間に1回以上
- ・配布対象 クラスの生徒、保護者